

【嵐山町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

嵐山町教育振興計画において、「学校では、主体的・対話的で深い学びを通して、身につけた基礎的・基本的な知識・技能を駆使して、粘り強く問題を解決したり、学びあい学習を通して、よりよいコミュニケーションを図ったりする力を育成します」とICTを含む分野で目標を掲げております。

嵐山町では少人数学級を活かし、ICT教育活動の充実を積極的に図っています。また、ICT支援員による授業支援を受けながら、ICT端末を「児童生徒同士がやりとりする場面」、「教職員と児童生徒がやりとりする場面」での活用の充実を目指しています。さらに、授業支援ソフトウェアを活用し、他者との協働作業を通じて、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」の実現を目指しています。

1人1台端末や先端技術を活用しつつ、多様化する子どもたちに対応して個別最適な学びの実現を目指しています。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期について、現場教職員に対して体感調査を実施いたしました。その結果、教育委員会にて行った簡易測定では、5校とも回線速度については国が示す推奨帯域を満たしています。しかし、教職員、児童生徒が授業で一斉に使用する際に通信速度が遅いという意見が多く見受けられました。現場での意見を受けて、GIGA第2期に向けてネットワーク環境の改善を行っていく必要があると考えられます。通信速度が遅いと感じる原因を調査するため、ネットワークアセスメントの実施を検討する予定です。

また、体感調査にて、教職員自身が1人1台端末を積極的に利活用できていないという意見が見受けられました。GIGA第2期では、全教職員が1人1台端末を積極的に利活用できるように研修の充実を図ります。

嵐山町では、令和元年度より、指導者用タブレット、電子黒板などICT環境の整備・充実に積極的に取り組んできました。同年に、ICT支援員の配置を行い、ICTの活用促進に努めてきました。

令和2年度には国のGIGAスクール構想を踏まえ、1人1台端末を購入し、令和3年度から学校現場において教科や学習場面に応じて、情報の収集・理解・整理・発信・共有のツールとして端末を日常的に活用しています。

また、導入当初から、全小中学校の全学年において、端末の持ち帰りルールを整備し、家庭学習においても端末の活用を図ってきました。Microsoft Teamsやeライブラリにお

いて、教職員との連携を図れる環境整備をしており、児童生徒の学びの環境拡充にも端末を活用をしています。

さらに、臨時休校等の学びの保障の取り組みとして、授業支援ソフトウェアやオンライン学習環境を段階的に整備し、現在では、不登校気味の児童生徒や感染症等による学級閉鎖・出席停止時でも学びを止めないための重要なツールとなっています。

端末を使って児童生徒が自分の考えをまとめ、クラスメイトや教職員とリアルタイムで考えを共有する授業支援ソフトウェアや児童生徒一人ひとりの理解度に合わせてデジタルコンテンツを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進してきました。

GIGA第1期を通して、児童生徒にとって1人1台端末が学びのツールとして確実に定着してきています。今後も現場の教職員や児童生徒が最適な学びをできるようにICT環境整備の向上に努めていきます。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和3年度に整備した端末は、導入後4年弱が経過し、バッテリー消耗が激しく、授業での活用に支障が出かねないため、令和7年度末に嵐山町内小中学校5校の端末の入れ替え及び予備機の購入を行います。GIGA第1期での反省点を踏まえ、1人1台端末環境を引き続き維持し、児童生徒の学びを止めることなく学習できる環境の構築に努め、以下を踏まえた活用を促進します。

(1) 1人1台端末の積極的活用

各校の教員がICT活用の目的を理解し、ICT活用指導力を向上できるよう、ICT活用に関する研修を計画的・定期的を実施します。

ICT機器活用に詳しく、教育内容や教材の知識を有するICT支援員を継続的に配置し、ICT活用の各種支援や授業実践事例等の蓄積・情報共有を行います。

1人1台端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書、デジタルドリル、授業支援ソフトウェア等を授業のみならず家庭学習で活用します。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒一人一人が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」において、積極的に1人1台端末を活用できるような環境づくりを行います。

課題解決や学習調整に1人1台端末を定着させ、児童生徒自身が自由に使い方を選択、駆使できるようにします。端末活用することにより児童生徒自身の学習状況の蓄積・管理ができ、自身のデータを参照し、学習に活用することができると考えられます。

児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む非同期型の学びを展開し、個別最適・協働的な学びの一層の充実を目指します。

(3) 学びの保障

児童生徒の学びの可能性を最大限引き出すために、教職員用の1人1台端末についてもフル活用をします。

1人1台端末を活用した適切な資料提示や学習状況のモニタリングを通して、児童生徒一人一人に合った学びの環境を確保します。

授業支援ソフトウェアやウェブ会議システムを活用したオンライン学習により学校と学校外をつなぎ、不登校気味の児童生徒やインフルエンザ等の感染症をはじめ、様々な事情により教室で学ぶことのできない児童生徒に対しても、学びを止めない学習環境の整備を行います。

また、学びの保障としてネットワーク環境の整備が不可欠となります。GIGA第1期での現場の教職員や児童生徒の意見を鑑みて、ネットワーク環境の改善が必要な場合は、適宜改善を行っていきます。